

第九十九話 「夢の途中」

私が相続に出会い、長い間相続に関する仕事を続けてこれたのは次の4つの組織（団体）のおかげです。

1 2000年に設立された相続アドバイザー協議会（芳賀則人理事長）の相続アドバイザー養成講座（全20講座）。相続のプロを養成する研修・教育機関です。ここで学びました。

ここでの理念は、「相続の研修と実務を通して、自分を磨き、人と社会のお役に立てること。」

共に志に高い講師と受験生の熱気の中で講座は充実していきます。既に全国に約700名の会員がいます。11月には大阪で講座が開かれるようになりました。

今後、全国にこの講座で学んだ協議会魂をもった受験生が増え、現場で活躍して行くことを楽しみにしています。

2 一般社団法人 相続知識検定協会（芳賀則人理事長）の「50才になったら相続学校」(R)

やっと動き出した団体です。対象は一般の人々です。相続・実務の現場では、相続知識の誤解や不足のために無駄な争いが多くあります。無理ありません。一般の人々はきちんと相続のことを学んだ機会がありません。無料セミナーやインターネットの都合のいい知識だけではきけません。

自ら多少のお金を払い、自ら学び、自分の相続や親の相続を考え、検定により相続の知識・考え方を確認します。

こうした人々が全国に増えて行くことで、相続の考え方が大きく変わって行きます。

3 一般社団法人 日本相続学会（伊藤久夫理事長）

設立準備中の団体です。相続を法律や税金だけでなく、家族と幸福追求の視点から考えます。そのため対象は相続に関心のある全ての人々です。

当然、法律家、弁護士、税理士に加え、相続の実務家、介護・医療・保険に関わる人、心理療法士、宗教家、哲学者の力も必要です。

あらゆる分野から相続の現状を見通し、問題点を指摘し、改善に向けての提言もしていく団体となります。

全国で各専門家がネットワークを組んで行きます。必ず大きな相続の変化が生じてきます。

4 野口塾（野口賢次塾長）

心から相続を学びたい人が集まる道場です。

塾長からは、相続では「譲る心」と「感謝の気持ち」が大切であるとくり返し講話があります。

塾生からは事例が持ち込まれ、全員が智恵を出しあいます。良い切磋琢磨が行われています。

こうした組織、団体、人と関わることによって私はまっとうに相続の仕事をやってこれました。

ありがとうございます。

この10年で相続の世界は大きく変わり始めています。これからの10年でさらに大きく変化して行くことを現場で確かめるのが私の夢でした。

しかし、あとのことは仲間たちを信じ託します。

夢の途中ですが、ひと足先に旅立ちます。